

オオタカやチョウゲンボウのような猛禽類もうきんるいが生息していると、その付近一帯の自然が注目されます。猛禽類はヘビや他の鳥、小動物などを捕らえて食べます。ヘビはカエルを食べ、カエルは昆虫類を食べ、昆虫類は草を食べます。自然の中では“食う、食われる”という関係が張り巡らされています。この関係を食物連鎖といいます。豊かな自然ほど食物連鎖が複雑です。肉食性で大型の猛禽類は食物連鎖の頂点の位置にいます。猛禽類が生息するには広い範囲の自然が必要です。市内にもたまに猛禽類のすがたを見かけます。

食物連鎖のベースになっているのは植物です。森林や草原、田畑などの植物（植生）が多種多様な生きものの生活をささえているのです。私たちはそのしくみをよく理解して、生きものを一方的においやってしまうことなく、うまくつき合っていくことが大切です。

## 自然観察へ出かける時の注意

- ◆ 自然の中では思わぬケガをすることがあります。たとえば、葉や草で肌を切ったり、雨の降ったあとではぬかるんでいるためすべったりします。注意しましょう。また、観察や散策するときにはなるべく肌のかくれる服装にしましょう。
- ◆ 持ち物に十分に気をつけ、水筒、帽子、タオルなどを忘れずもち、一人では出かけないようにしましょう。必ずお家の人に言って出かけましょう。
- ◆ また、ハ千の群れがそばにいたら、そっと騒がずはなれましょう。もしもさされてしまったら、必ず医師にみせて治療しましょう（特に秋のハ千の活動時期には注意しましょう）。

## 自然をたいせつに

- ◆ 花も、草も、木も、魚も、鳥も、昆虫たちもみな自然の一員として生きています。そして、みな名前があります。
- ◆ 野生生物と接することは自然の巧みさ、奥深さ、偉大さなどを知ることにつながります。しかし、一方では配慮の足りない捕獲・採取等が野生生物を絶滅の危機に追いやっていることも事実です。そこで生きものをよく理解し、正しい判断が必要です。
- ◆ 生きているすがたをよく観察し、スケッチをしたり、写真を撮ったりして、後で図鑑で調べたりするのもいいと思います。また、いったん捕らえたものも、もとにもどしてやりましょう。
- ◆ 市内には、多くの野生生物が生育・生息しています。その中には絶滅にひんしているものも少なくありません。自然観察が自然を荒らすことにならないように、よく考えて行動しましょう。

**注意！** 飼っていたペットなどを川・沼、自然の中に放流したり放すのはやめましょう。

## そして・・・、自然となかよくつきあいましょう。

このリーフレットは、平成11年から13年度に実施した「八千代市水辺の自然環境調査報告書」をもとに編集されたものです。詳しくは図書館や公民館等に同報告書がありますので、ご覧ください。

発行：2004年3月

八千代市経済環境部環境保全課 〒276-8501 八千代市大和田新田312-5

資料：「八千代市水辺の自然環境調査報告書」2002年3月 八千代市

編集：財団法人 千葉県環境財団

監修：八千代市水辺の自然環境調査員（代表：岩瀬 徹） 印刷：三陽工業 株式会社